XF15で在来仕口、継ぎ手に完全対応

CAD側で加工実寸法を保持、加工形状の統一へ

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）は、非住宅対応のプレカットCAD「XF15」で、在来工法の仕口、継ぎ手に完全対応する。従来のプレカットCADと異なり、接合部の加工実寸法をCADで側で保持する仕組みを採用するため、異なる機械メーカーの加工機でも同一の形状、寸法で加工できるほか、住宅の座標軸を外れた複雑な架構の物件でも自在に設計、入力できるようになる。一部の形状は既に対応しているが、来年4月に発売するVer.24で完全対応する。

ネットイーグル

在来工法で多様な非住宅対応が可能に

通常、在来工法のプレカットは、接合部の加工実寸法をCAD側でなく加工機側で保持しているため、機械メーカーごとに異なる形状、寸法で加工されている。一方、金物工法のプレカットは、金物メーカーごとに加工実寸法があらかじめ決められているため、異なる機械メーカーの加工機でも同一形状、同一寸法で加工されている。

非住宅木造をプレカットする場合、建物の規模によっては1工場では対応できず、複数の工場で加工を分散するケースがある。この場合、加工形状が同じ金物工法ならどこの工場でも同じ加工ができるが、加工形状が異なる在来工法の場合、同じメーカーの加工機を選ぶ必要があった。XF15では各機械メーカーの協力を得て、CAD側の設定寸法で在来工法を加工できるようにすることで、異なる機械メーカーの加工機でも同一の形状、寸法で加工できるようになる。

フンデガーなどの特殊加工機に対応するXF15では、もともと加工実寸法をCAD側で保持する形式を採用しているため、個別設計の製作金物も自在に入力、加工できる。通常のプレカットCADでも非住宅に対応できるが、大スパンの間取りや住宅の座標軸を外れた複雑な架構の入力には不向きで、大断面集成材を使う部分や複雑な架構部分のみ手加工になるほか、住宅向けのCADでは入力できなかった複雑な架構の物件にも対応でき、さらには複数の工場による分散加工も可能になる。

既に蟻、鎌継ぎ、桁差し、大入れ、大引き、渡り顎、ホゾ（平ホゾ、角ホゾ）、羽子板ボルトに対応しているが、Ver.24では胴差し、兜、茶臼、追っ掛け継ぎ、台持ち継ぎ、コーナー大入れ（イカ、カニ）、傾ぎ大入れ、軒先大入れ、引きボルトにも対応する。

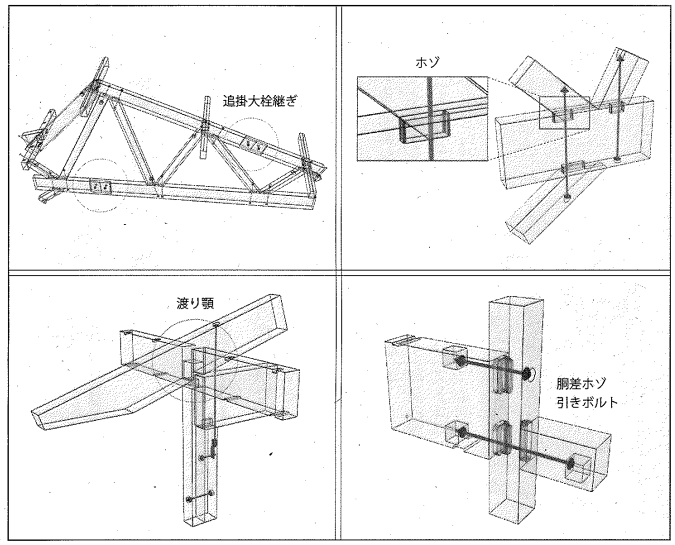
マスター登録で入力も効率的に

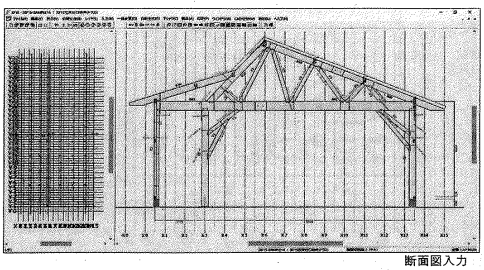
XF15では、これまで製作金物やGIR接合（鉄筋）、一般の金物工法の接合部対応を基本にしてきた。非住宅建築では大断面集成材の設計、加工のニーズが高かったためだが、プレカット工場の非住宅対応では、在来工法が最も多いことは同社が毎年実施しているアンケート調査でも証明されている。今年1月の調査では、大断面集成材構造の13・5%、金物工法の23・7%に対して在来工法は37・2%だった。XF15で在来工法に対応することで、在来工法プレカットの可能性が一段と大きく広がることになる。

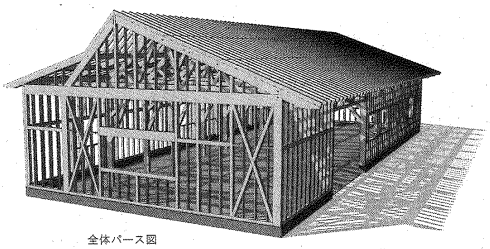
金物工法については7月から、XF15向けに金物工法を入力するためのマスターデータ「金物工法マスター」の無償提供を開始した。既製品の金物工法の入力作業を効率化できるほか、木造軸組プレカットCAD「Xstar」で入力した金物工法データをXF15でそのまま利用できる。

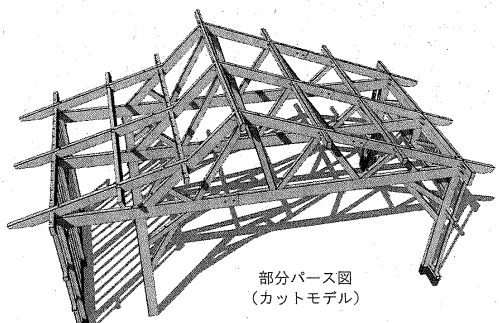
XF15は、設計の自由度が高い分、設定で必要な項目が多く、住宅向けのXstarであれば金物メーカーの仕様規定で自動生成できる金物工法も一から入力する必要があった。金物工法マスターを利用すれば、ユーザーが個別にデータを作る手間が省けるだけでなく、オプションソフト「Xstar読込」を使ってXstarで入力した金物工法データをXF15に取り込むことにより、これまでの以上に合理的な入力、加工が可能になる。異なるメーカーの金物工法を同一物件で併用することもできる。

標準化が可能な製作金物や今回対応を発表した在来工法、GIR接合の鉄筋などもマスター登録できるため、より効率的に入力できるようになる。




断面図入力


全体パース図


部分パース図
（カットモデル）

問われる「総合力」差別化へ
業界初
CADはここまで進化しました!
技術革新!
イノベーション
非住宅木造プレカットCAD
OPEN-NET XF15
在来仕口/継手対応
この建物の加工は全て在来仕口&継手です。
NET EAGLE
ネットイーグル株式会社
https://www.neteagle.co.jp
■本　社 050-3536-5961 福岡県福岡市西区小戸3-54-50
■中部テクノセンター 050-3538-0221 愛知県江南市古知野町朝日165ナガタニビル3F
■東京CADセンター 050-3533-2894 東京都港区芝浦2-14-4オアーゼネクサス芝浦5F